

保証することだ。

さらに、選挙で郵政民営化一本に絞り、憲法、大増税を隠し続けた。選挙が終わるやいなや憲法委員会の設置や増税宣言をした。「郵政民営化」は市民になんの利益もないと考えるが、市長の見解は。

(2)介護保険制度が改悪された。施設サービスに食費と居住費が自己負担になり、年金だけでは払えない人が出てくる。施設入所者に対する説明理解はされたか。国の低所得者対策はあるがあまりにお粗末。「カネの切れ目が介護の切れ目」にならないために市独自の減免制度つくるべきだ。

市長 (1)郵政民営化は民間に出来ることは民間でという考えのもとに改革が進められていると認識している。時代の変化に伴って避けて通れないと判断する。しかし、統廃合により不便になっていくのではないかと、郵便局がなくなるのではないかという不安が住民のなかにあるのは間違いない。競争原理に基づいて採算性のみを重視した事業運営がなされるおそれや、国民の生活に大きな影響を及ぼすことから、民営化については十分論議を尽くし、日本全国津々浦々サービスが行き届くように、この点についてはしっかりと推進し

ていただきたい。真に国民のための郵政事業となるように実施していただきたい。

福祉保健部長 (2)今回の改正では、所得の低い人には一定の配慮がなされている。市においても国に準じて取り扱いたいと考えており、現時点での独自の軽減策等は考えていない。

(その他の質問事項)
学校図書充実。子供と向き合う心の教育を。

拡散型都市から集約型都市 (コンパクトシティー)へ

今村議員 新総合計画について

現計画の達成度はどうか。達成、進行中、取組中、未着手と大別して概括を。遅れの原因は。新計画へどう反映させるのか。

歴史博物館計画はどう位置づけるのか。現史料館は管理・運営、収蔵庫の機能など改善を急がねばならない憂慮すべき状況である。また文化施設であると同時に歴史観光立市計画の中核施設ともなるのではないかと。

新幹線問題はどのような位置づけなのか。また新駅周辺対策について、中心市街地を大村駅前と二極化する可否かの是非、形成されつつある都市軸との関係などその基本方針はどうか。

人口減少時代のグランドデザイン、都市計画の理念として持続可能な都市・コンパクトシティーの考え方を導入できないか。市街地の維持にはインフラの維持が必要。今後、社会保障へ財政負担は傾斜しインフラへの投入比率は低下する。市街地面積の縮小は、財政条件からも必須の政策ではないか。こうした議論はなされているか。



九州新幹線長崎ルート (概要図)



市長 達成14%、順調に進行中68%、遅れて取組中15%、未実施3%である。遅れ、未実施の原因は、社会状況の変化、長引く不況、財政状況の悪化などが考えられる。

現在の計画を継承し、かつ発展させながら、新たな視点と発想により策定をする。

歴史博物館は歴史観光立市をうたう一つの拠点と考えている。計画の中では何らかの形で位置付けをしていきたい。史料館は改修等機能保持、強化に対応しなければと考える。スタッフについては知識と経験をもった嘱託員の配置を検討したい。

新幹線の整備は地域の活性化につながることを確信している。早期着工、早期実現を見据え、新幹線を生かした地域づくりに努めたい。新駅の整備について、庁内に協議会を設置している。新駅と市内の各拠点を今後どのように連携させるか非常に重要と考えている。

様々な地域の特性やニーズを反映した土地利用を推進していくかなければならない。全国的に人口減少が続く、国の方針も郊外型をある程度抑制し、中心市街地に力点を置いたまちづくりへシフトしているなか、市としても県の指導のもと新たな取り組みをしたいと考える。